

千葉県立保健医療大学の学生による お口の健康ボランティア活動について

若い世代を対象としたお口の健康に関する
知識の普及・啓発と健康感のアンケート調査

1

若い世代を対象にした歯科保健対策推進の 必要性

- 歯周病は、有病者率が高く、自分の歯を有する高齢者の増加に伴い今後も重要な高齢期の健康課題になると見込まれることなどから、さらなる予防対策の推進が求められる。
- 現在のところ、20歳代、30歳代の者については法定の歯科健診等はなくアプローチが手薄になっている。この世代に対して歯科保健対策を推進する必要がある。

2

千葉市における歯周病の現状

「健やか未来都市ちばプラン」の中間評価において、歯・口腔の健康のうち歯周病に関わる3つの指標が悪化傾向であった。

指標	ベースライン	目標 (H.34年度)	中間値 (H.28年度)
20歳代における歯肉に炎症所見を有する人の割合の減少	28.9% (H.24年度)	25%	35.8%
40歳代における進行した歯周炎を有する人の割合の減少	39.4% (H.23年度)	25%	47.7%
60歳代における進行した歯周炎を有する人の割合の減少	49.2% (H.23年度)	45%	57.4%

3

「お口の健康ボランティア」について

- 健康支援課では、20歳代の者に対する歯科保健対策の一つとして、歯周病に関する知識の普及・啓発を図るために、主体的な活動を行うことができるボランティアの育成・活動支援をH.31年度より開始した。
- 初年度は市内にある医療系の大学である千葉県立保健医療大学の歯科衛生学科のボランティアサークルの学生7名が参加した。
- 活動内容として、
 - 歯周病に関する知識の普及、歯科健診受診を勧奨するための媒体の作成
 - アンケート調査の実施（Webアンケート、質問紙調査）

4

歯周病に関する知識の普及、歯科健診受診を勧奨するためのポスターの作成



5

アンケート調査 ①WEBアンケート

対 象：大学生および20歳代の者

調査方法：Googleフォームを利用したアンケート
(QRコードからアクセスし回答)

調査期間：R.1年 10月～11月

回答者数：143名

調査項目：性別、年齢、職業、居住地、家族構成、仕事・アルバイトの状況、帰宅時間、ストレス・疲労感の有無、睡眠時間、食事の状況、間食、飲酒、喫煙、歯・口の健康観、かかりつけ歯科医院の有無、健診の受診、歯磨きの状況、歯周病に関する知識

6

アンケート調査 ②質問紙調査

対 象：千葉県立保健医療大学の学生

調査方法：質問紙による記述式アンケート

調査期間：R.1年 12月中旬

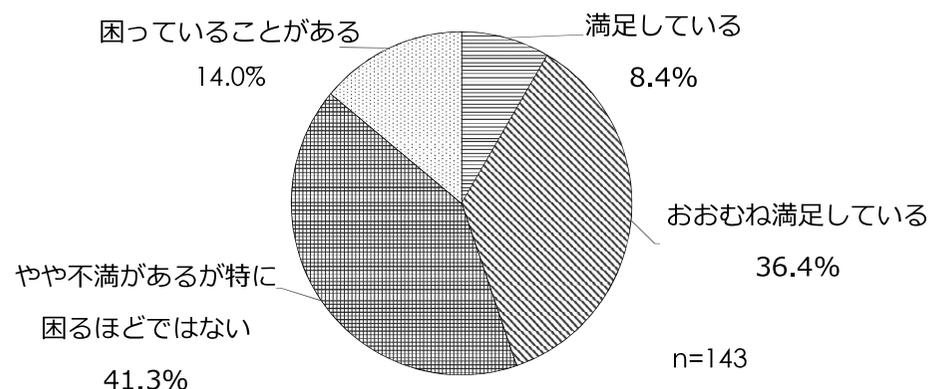
回答者数：111名 (看護学科39名 歯科衛生学科72名)

調査項目：性別、年齢、居住地、所属、かかりつけ歯科医院の有無、歯磨きの状況、啓発ポスターを見て感じたこと

7

アンケートの結果 ①WEBアンケート

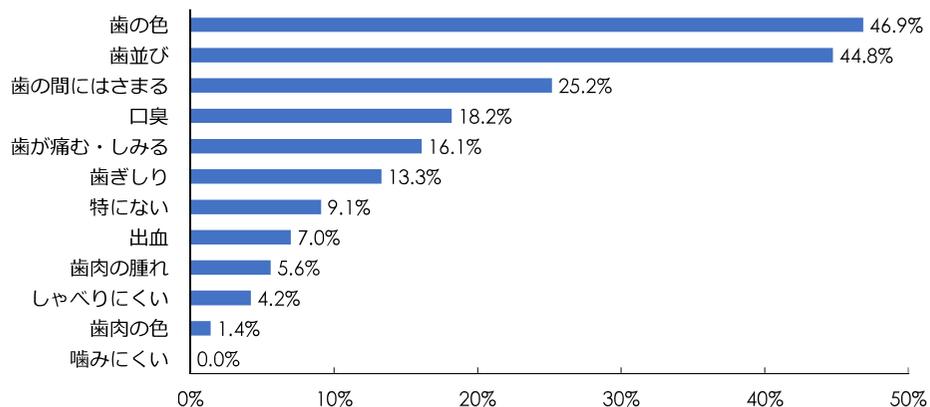
Q. 現在、ご自分の歯や口について



8

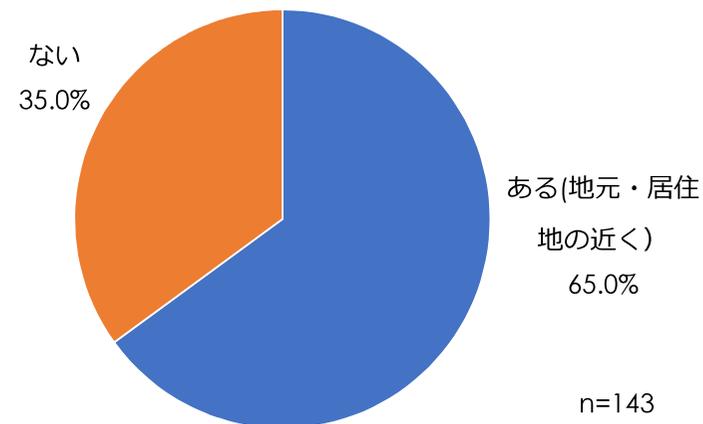
Q. 歯や口について気になること、興味ある事

n=143



9

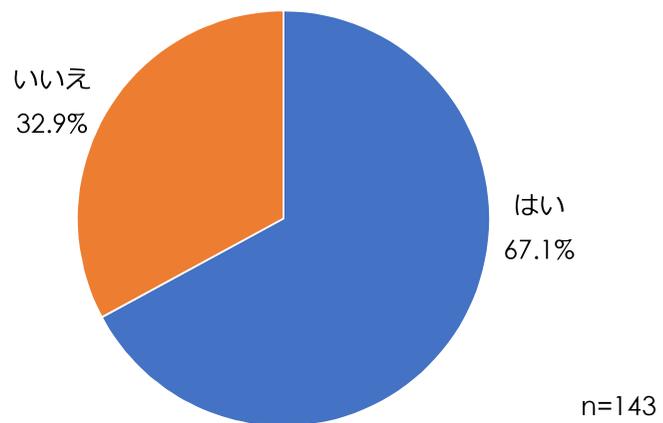
Q. かかりつけ歯科医院の有無



n=143

10

Q. 過去1年間に歯科健診を受診したことがある

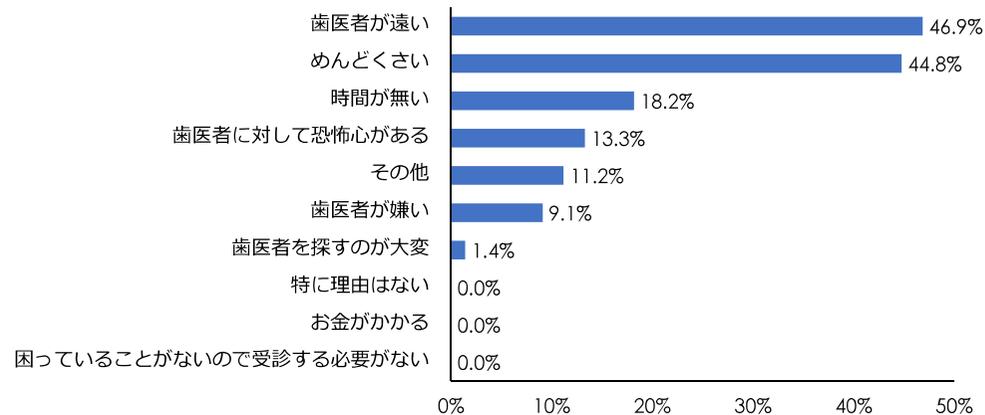


n=143

11

Q. 過去1年に歯科健診を受診していない理由

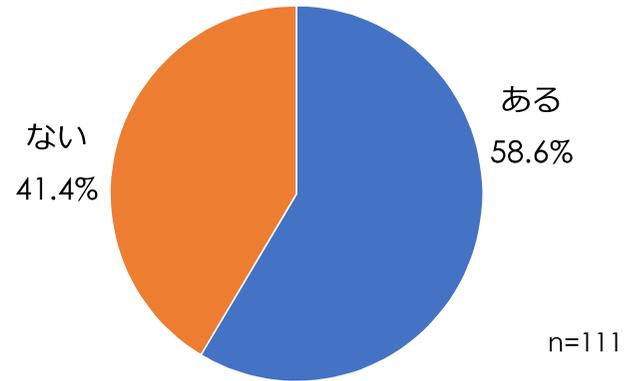
n=47



12

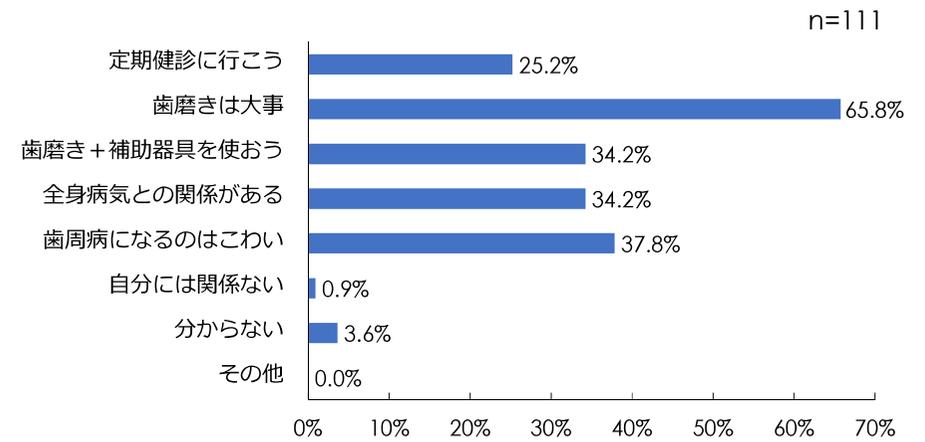
アンケートの結果 ②質問紙アンケート

Q. かかりつけ歯科医院の有無



13

Q. ポスターを見てどう感じましたか？



14